

学びのR

No. 5 1 (令和4年2月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

＊ ＊ 「指導と評価の一体化」で授業改善 19 ＊ ＊ ～ 「家庭科、技術・家庭科(家庭分野)」編～



埼玉県マスコット
「コバトン」

※ 「指導と評価の一体化」について、家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の「学習評価について」、
「評価の進め方」、「指導と評価の計画」を例に解説します。

学習評価について

学習評価とは、学校における教育活動に関し、児童・生徒の学習状況を評価するものです。教師からみて、教育の改善のために役立つ役割もあります。

評定

各教科の学習状況を**総合的に**捉える評価
⇒児童・生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることで、教育課程全体を見渡してその教科の学習状況を把握し、指導や学習の改善に生かすことを可能とします。

観点別学習状況の評価

学校における児童・生徒の学習状況を複数の観点から、それぞれの観点ごとに**分析的に**捉える評価
⇒教科等の学習過程において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることで、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とします。

評価の進め方

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 家庭 p. 35 参照】

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 技術・家庭(以下※1) p. 81 参照】

○**配当する授業時数と履修学年**については、児童・生徒や学校、地域の実態等に応じ、**各学校において定めます。**
○履修学年等を踏まえて、**題材の評価規準を学習活動に即して具体化することが必要**です。

1 題材の目標を作成する

2 題材の評価規準を作成する

○学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえる。
○児童・生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえる。

○1、2を踏まえ、**評価場面や評価方法**等を計画する。
○どのような**評価資料**(児童・生徒の反応、ノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えた、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

3 「指導と評価の計画」を作成する

ポイント

「**主体的に学習に取り組む態度**」
家庭科では、**①粘り強さ、②自らの学習の調整、に加え、③実践しようとする態度**についても評価します。

授業を行う

4 観点ごとに総括する

観点別学習状況の評価を行い、児童・生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

指導に生かす評価

指導改善に生かすために、単元を通して適宜行う評価です。

児童・生徒全員の学習状況を見取り、支援が必要と判断した場合、必要な手立てを考え、個に応じた指導を工夫します。

記録に残す評価

児童・生徒全員の学習状況を記録に残し、総括するための評価です。

毎時間、全観点を評価し記録することは現実的ではないため、記録に残す場面を精選し、適切に見取れる段階で評価することが重要です。

指導と評価の計画

【※1 p.5、p.88、p.90～97 参照】 【埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 p.199～201 参照】

＜学習評価の改善の基本的な方向性は3点です＞

- ① 児童・生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

＜評価場面が大事です＞

観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行います。

題材全体を貫く課題を設定する場面で評価するとともに、それぞれの課題を設定する場面においても評価します。

小単元	時	○ねらい・学習活動	【評価の観点】 評価規準（評価方法）
衣服の選択	1	○健康・快適で持続可能な衣生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定することができる。 ・小学校の学習や、今までの経験から、衣服を選ぶ際に困ったことや、失敗したこと等の問題を見だし自分の衣生活について考え、課題を設定する。 ・着なくなった制服の再利用などについて考える。	題材全体を貫く課題 【思】健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、日常着の手入れ、衣服等の再利用などについて問題を見だして課題を設定している。（学習カード）
	2	○衣服の社会生活上の機能が分かり、時・場所・場合に応じた衣服の着用について理解することができる。 ・社会生活を営む上での衣服の機能や目的に応じた着方について考える。 ・自分たちが着用する学校の制服や体操着をデザインし企画内容を話し合う。 ・個性を生かした着装について和服を取り上げ、構成や着方による違いに触れ、環境への配慮やものを大切にする視点から和服の良さを知る。	【思】＜課題1＞ 衣服の選択について、制服や体操着の生活場面を想定して考え、問題を見だして課題を設定している。（学習カード） 【知】 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用について理解している。（学習カード） 【知】 衣服の適切な選択について理解している。（学習カード）
	3		
衣服の手入れ	8	○衣服の補修の仕方を理解し、適切に補修することができる。 ・小学校で学んだ縫い方を振り返る。 ・衣服の状態に応じた補修をする。 ・まつり縫いの特徴について理解し、まつり縫いが必要な場所や、スナップ付けなどの目的と布地に適した方法を考え、必要な補修について実習する。	【思】＜課題2＞ 衣服の補修や消費者としての消費行動について問題を見だして課題を設定している。（学習カード）
	9		《第9時》指導に生かす評価 （練習布、確認テスト） 【知①】 衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解していると同時に、適切にできる。
	10		
11			

しっかりと「指導」したうえで、「評価」することが大切です。

ポイント

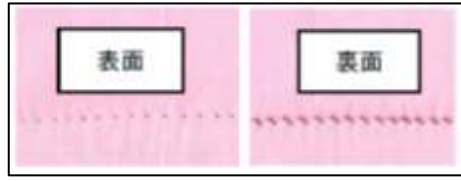
【知①】指導に生かす評価と【知②】記録に残す評価について

材料や状態に応じた日常着の補修として、まつり縫いやスナップ付けなどの方法を理解し、適切にできているかを練習布の縫い方の状況や確認テストから評価します。まつり縫いやスナップ付けなどは2回行い、第9時を「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立てを考慮するための評価）とし、第10時を「記録に残す評価」とすることが考えられます。

- 【まつり縫いの特徴とまつり方のポイント】
- すそなど、布の端をまつる方法である
 - ・裏の三つ折りの折り山に斜めに糸をかけて表布をすくう
 - ・表布は目立たないようにすくう
 - ・縫い目は等間隔にする
 - ・縫い目が一直線になるようにする

例えば、まつり縫いでは、（左のような）まつり縫いの特徴やまつり方のポイントを踏まえた確認テストにより評価することが考えられます。また、【写真1】縫い方見本を用いて自己評価したり、相互評価したりすることが考えられます。その際、適切に縫えていない「努力を要する」状況(C)と判断される生徒に対しては、まつり縫いの特徴やまつり方のポイントを理解できるようにするために、再度縫い方を詳しく説明したり、動画を視聴させたり、縫い方見本を示したりして縫い方を確認できるよう個に応じた指導を工夫することが重要です。

【写真1】縫い方見本



引用・参考
 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 埼玉県中学校教育課程指導・評価資料
 新学習指導要領に対応した学習評価

国立教育政策研究所
 埼玉県教育委員会
 独立行政法人教職員支援機構



「学びのR」
 はこちらからも御覧いただけます！

